

平成25年度施策評価表

作成年月 平成26年8月

分野名(章)	豊かな資源を生かした産業が根づくまちづくり	分野(章)番号	5
政策名(項)	消費者ニーズに対応した農林業の振興	政策(項)番号	I
施策名(目)	畜産の振興	施策(目)番号	③
担当課	農林課	担当課長	今村 勝則

1. 施策の基本方針

施策目的	・畜産農家が家畜改良や自給飼料の生産拡大に取り組み、安全・安心な畜産物の提供と生産性の向上による経営の安定を図ることを目的とする。
------	---

2. 施策の現状分析

施策の概況	施策に対するニーズ等(具体的事項)	施策を取り巻く環境(社会環境, 国・県の動向等)
	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖基礎雌牛の改良に取り組むため、町内産の優良基礎雌牛の町内保留に対して、町の継続支援を求めている。 ・畜産共進会の開催に対して町の継続支援を求めている。 ・町営牧場に対して、いつでも利用できるようにしてほしいと一部の利用者から要望がある。 ・高齢者等肉用牛貸付基金を廃止し、その財源を活用した町独自の和牛振興策を求めている。 ・全共に出品して上位入賞を目指すため、その対策を求めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産物価格が低迷している。 ・国民の食に対する安全・安心志向が高まっている。 ・デフレ不況の中で多くの国民は、農畜産物についても低価格志向である。 ・農業従事者の高齢化の進展と後継者不足が深刻である。 ・全国和牛能力共進会宮城大会が、平成29年9月に開催される。

施策指標(成果指標)	指標の内容	達成度(上段:目標 下段:実績)							
		H23	H24	H25	H26	H27	H27目標	備考(他団体状況含む)	
主要	乳用牛(搾乳牛)と肉用牛(繁殖牛)の飼養頭数の合計	目標			2,600頭	2,700頭	2,800頭		
		実績	2,625頭	2,594頭	2,558頭			2,800頭	
		達成率			98%				
参考①	共進会における当町出品牛の入賞割合	目標			45.0%	45.0%	45.0%		
		実績	40.0%	37.0%	37.5%			45%	仙南地域和牛共進会 宮城県総合家畜共進会 H22は口蹄疫、H23は震災のため中止
		達成率			83%				
参考②	乳用牛飼養農家戸数	目標			50戸	46戸	46戸		
		実績	51戸	48戸	46戸			46戸	
		達成率			92%				
参考③	肉用牛飼養農家戸数	目標			80戸	77戸	77戸		
		実績	90戸	78戸	77戸			77戸	
		達成率			96%				
参考④		目標							
		実績							
		達成率							

3. コストの推移(行政資源投入の状況)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	平成27年度
		(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(当初予算)	(見込み)
事業費		7,795千円	8,045千円	10,704千円	9,365千円	10,904千円	8,904千円
財源内訳	国庫支出金	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	県支出金	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	(うち過疎債)	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	その他特定財源	千円	千円	千円	千円	千円	千円
	一般財源	7,795千円	8,045千円	10,704千円	9,365千円	10,904千円	8,904千円
従事者数	正職員	0.70人/年	0.70人/年	0.60人/年	0.60人/年	0.80人/年	0.80人/年
	臨時職員	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年	0.00人/年
人件費	正職員	4,713千円	4,774千円	4,073千円	4,073千円	5,431千円	5,431千円
	臨時職員	千円	千円	千円	千円	千円	千円
退職給与引当金		607千円	655千円	545千円	545千円	727千円	727千円
トータルコスト		13,115千円	13,474千円	15,322千円	13,983千円	17,062千円	15,062千円

4. 施策の評価

有効性の評価	施策成果の達成度	b	a達成度は非常に高い b達成度はやや高い c達成度はやや低い d達成度は低い
	[説明]		・乳牛・肉用牛の飼養頭数は、平成23年度は2,625頭、平成24年度は2,594頭、平成25年度は2,558頭であり、年々減少しているものの、農畜産物価格の低迷、農業従事者の高齢化の進行、後継者不足の状況を考慮すると、成果の達成度はやや高い。
	施策成果向上の可能性	b	a可能性は十分ある bある程度可能である c可能性はあまりない d可能性はない
	[説明]		・畜産農家が生産した畜産物が再生産に繋がる価格になるような仕組みができれば、施策成果の向上が期待できる。
	貢献度	b	a貢献度は非常に高い b貢献度はやや高い c貢献度はやや低い d貢献度は低い
[説明]		・安全・安心な畜産物を消費者に供給するという目的を果たし、家畜改良に取り組むことにより、生乳生産量の拡大や質量兼備の優良牛の生産につながり、畜産農家の経営安定に寄与するなど、貢献度はやや高い。	

5. 施策の課題

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産物価格が低迷している中で、持続可能な農業経営を検討する必要がある。 ・和牛農家の高齢化の進展が顕著であるので、和牛農家の後継者確保を検討する必要がある。 ・輸入飼料の依存度を改善するため、自給飼料の生産拡大を検討する必要がある。 ・東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い草地除染に取り組む必要がある。
----	---

6. 施策の方向性

総合評価	この施策の事業費を「維持」して取り組んでいく	次年度以降方針	<ul style="list-style-type: none"> ・畜産農家の後継者確保対策を検討する。 ・自給飼料の生産拡大対策について、転作田の活用を含めて検討する。
------	------------------------	---------	---

【総合評価】 拡大、維持、縮小

なお、「総合評価」については、H26の事業費とH27の事業費を比較したのみの評価となりますので、「次年度以降方針」の内容とは異なる場合があります。
必ずしもこの事業費の比較の評価が事業内容に繋がるとは限りません。